

深沢紅子美術館の一隅で、2019年もサ会議 展示

企画者募集

軽井沢町塩沢の軽井沢タリアセンに行かれたことがあるでしょうか。サ会議は、2013年から、環境省「モニタリング1000里地調査」で植物を調べています。昨年からは、同施設内の深沢紅子野の花美術館2階で、展示を始めました。



もっと工夫して、面白くしたい！

11月下旬、深沢紅子野の花美術館大藤館長から「来館のお客さんの美術館滞在時間が伸び、たいへん好評だった。ぜひ来年度も展示をお願いしたい。」と連絡がありました。2018年5月～11月まで、サ会議が美術館2階の小部屋で軽井沢の自然の豊かさを説明するポスター、ヤマタバコ実物大模型、ヤエガワカンバ樹肌、クイズなどの展示を行ってきました。

■軽井沢タリアセンとのおつきあいの始まり

タリアセンのような観光施設とのおつきあいは、2010年の「全町サクラソウ調査」がキッカケでした。敷地にサクラソウがあると野間会員からの情報で、調査させていただいたのです。驚いたことに、サクラソウだけでなく、私たちの知らない植物がいっぱいあり、植物標本用に採取させていただけることになったのですが、花が咲かないと採取できないので、ほぼ毎週、通うことになりました。

■環境省「モニタリング1000里地調査」へ発展

そんな様子を見ていた岐阜大の津田智先生(会員)が、「モニ1000里地調査」に登録す

れば、とアドバイスしてくださり、「モニ1000里地調査」活動へ発展したのです。

■里山の自然が残っている訳

観光客にヤブだらけの見苦しい所を見せたくない、この15年ほど年1回、下草刈りや落ち葉掃きをしていたそうです。この作業が、かつて軽井沢の農家がやっていた「里山の手入れ方法」と合致し豊かな生態系が復活していたのです。

従業員の皆さんにも、里山の大切さを説明する機会もいただきました。「東京からこんなに近くに、都会の人が簡単には見ることのできない植物が多数あるのにびっくりした。」(日本自然保護協会のモニ1000調査指導の担当者)という感想も紹介しました。

《展示企画の募集》

こんな流れの中で、タリアセン側から、自然の展示をしてみないかというご提案を頂きました。2019年の新展示企画はまだ全くの白紙です。斬新で面白い、来館者にしっかり読んでいただけ、軽井沢の自然の魅力を知っていただけるような展示の企画を考えていただけないでしょうか。

野の花さんぽ



湖畔での自然観察を「野の花さんぽ」という名称で行っております。(2018年、3回)参加者の笑顔が忘れられない楽しい活動です。来訪者の自然を見る目が違うので、説明する側にもとても勉強になります。また、複数の目で見ること、私たちだけでは気付かなかったことも発見できます。講師役は、日本自然保護協会の「自然観察指導員」(*)の会員が行っています。「自然観察からはじまる自然保護」もモットーに、「知識ではなく、自然の中での感動を伝えたい！」と活動しています。

*自然観察指導員講習会を受講・修了し、登録申請すると自然観察指導員に登録できます。

